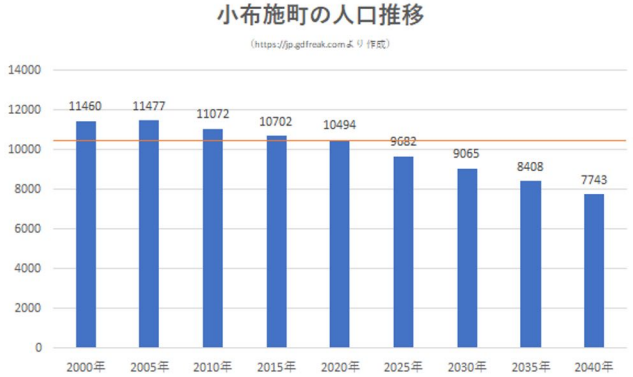
コロナ禍を踏まえた新たな地方移住

地区の計画とデザイン　小布施１班

小布施町千曲川河川敷　撮影：学生の友達

小布施町の紹介

- 長野県北部・千曲川沿いの平野に位置
- 長野市までは電車、車で約30分
- 面積　19.12㎢（県最小の町）
- 人口　10,494人（2020年5月）
- ここ数年は人口約一万人をキープしているが今後大幅な人口減少が予測される



2040年には人口が約8000人にまで減少すると予想される

小布施町の特色

- 栗、マスカットなどの果樹栽培が盛ん
  - モンブランなど栗菓子が名物
- 町並み修景事業
  - 地元主体のまちづくりによって整えられた美しい街並み
- 年間約120万人[注1]の観光客が訪れる
  - COVID-19による打撃で店舗や観光施設の売上が30〜100%[注2]減少

注1：統計でみる小布施町の姿（平成30年度版）より
注2：小布施町職員へのインタビュー（2020/06/24）より

写真上：モンブラン朱雀ー小布施堂HPより（https://obusedo.com/suzaku/）
写真下：栗の小径ーPinterestより（https://www.pinterest.co.uk/）

小布施町での暮らし

- 自然環境
  - 美しい山や川
  - 農のある暮らし
  - 自然の中での遊びや教育が可能。
- 住みやすさ
  - ショートウェイ・シティ

    ー小さな町であるため、移動距離が短く
    徒歩で様々な施設へのアクセスが可能
- コミュニティの濃さ
  - 濃密な地域コミュニティがある。
  - 困ったときは近所で助け合う住民同士の相互扶助の関係
  - 移住者にはコミュニティへの了承をあらかじめ要求している

    ー小布施町職員へのインタビューより(2020/06/24)

2017年からはスラックラインのW杯が毎年開催されている
ー小布施町の移住プロモーション動画より
（http://my-jpn.com/award/2013prize/）

pre COVID-19 の都市と地方

⊙ メリット ⊗ デメリット	都市	地方	（小布施）
高齢者	⊙ **医療サービスの充実** ⊗ 年金で暮らせない	⊙ **つよい紐帯** ⊗ 車がないと不便	⊙ 街の小ささ 畑いじり
子育て世代	⊙ **教育環境の充実** 職住近接 ⊗ 住環境が悪い	⊙ **住環境の良さ** **近所との助け合い** 待機児童が少ない ⊗ 教育の選択肢少ない	⊙ 近所の人と助け合い ⊗ 保育施設が少ない
社会人	⊙ 平均賃金が高い ⊗ 通勤に労力を要する	⊙ 家賃が安い ⊗ 魅力的な職業がない 賃金が安い	⊙ 長野市に近い ⊗ 魅力的な職業がない
学生	⊙ **教育機会が豊富** ⊗ 通学時間が長い	⊙ アウトドアの充実 ⊗ 大学高校がない	⊙ 鉄道で通学可能 ⊗ 進学の際、町外に

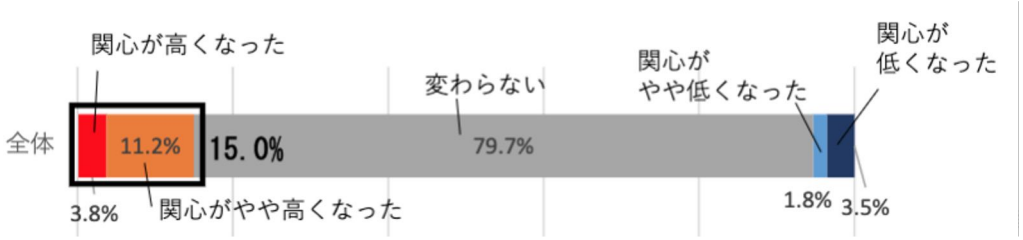
pre COVID-19 の都市と地方

⊙ メリット ⊗ デメリット	都市	地方	（小布施）
高齢者	⊙ 医療施設の充実 ⊗ **感染リスクが高い**	⊙ **感染リスクが低い** ⊗ 近所づきあいの減少	⊙ コミュニティの安心感 ⊗ **自治会の活動自粛**
子育て世代	⊙ 子供と触れ合う時間増 ⊗ **育児負担の増加**	⊙ **コミュニティ子育て** ⊗ **学習機会の減少**	⊙ 感染リスクの低さ ⊗ 学校の代替少ない
社会人	⊙ **モノの集積** ⊗ 娯楽の減少	⊙ アウトドアの娯楽 ⊗ テレワーク導入遅延	⊙ **自動車での通勤** ⊗ 観光収入減少
学生	⊙ **オンラインで負担減** ⊗ **友達との交流が減少**	⊙ オンライン学習普及 就活の負担軽減 ⊗ **友達との交流が減少**	⊗ 教育面での遅れ

with COVID-19

- テレワークの普及・価値観の変化
  … 働く場所・住む場所の制約の減少 → 都市にいる意味は？

- 移住の意識の高まり
  - 新型コロナウイルス感染症の影響下で地方移住に関心を持った人は多い。
    … 全体の15.0%、特に20~30代・東京に住む者で多い（注）



（注）
内閣府（2020）「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」https://www5.cao.go.jp/keizai2/manzoku/pdf/shiryo2.pdf より

左図はそのスクリーンショット
質問は「今回の感染症の影響下において、地方移住への関心に影響はありましたか（三大都市居住者に質問）」

  - テレワークが進み、小布施町を出た若者がUターンしてくる可能性がある
    （小布施町職員へのインタビュー（2020/06/24）より）

提言の方針

COVID-19 の流行により

- テレワークの普及
- 価値観の変化
  - 密を避けた暮らし
  - 人との繋がりを重視
  - 家での暮らしの充実

↓

移住への機運の高まり

↓

【提言】より地方移住への関心を高め、実際に移住を促進する手法を提案する

ターゲット:子育て世代

なぜ子育て世代？

- COVID-19の流行によりテレワークが普及
  →毎日職場に通う必要がなくなる。職場と住居の近接性の低下。
  →住む場所の選択肢が広がる。居住地に求めるものが変化する。

- 特に子育て世代が求めるものは地方農村地域において満たされる。
  例)仕事のための自分だけの空間が取れる広い家(父)
  一住宅あたり延べ床面積　東京:64.48m2　長野:127.84m2
  (国土交通省住宅経済関連データ参照)
  住民同士の繋がり、強いコミュニティ(母)
  小布施町は移住者に対してあらかじめ密なコミュニティーの了承を得るほど(勝山さんへのインタビューより)
  大自然の中で遊べる環境がある(子)
  密を避けたアクティビティの充実(地方)⇔人が集まる娯楽施設の充実(都会)

上:小布施町　下:東京
(google mapより)

なぜ子育て世代？(ペルソナ像)

具体的なペルソナ像　　親30代~40代、子0~10歳程度を想定

family①　職場への近接性よりも過密を避けられる地方を選択

父:30代、会社員(本社は東京だが自宅勤務、2週間に1回程度東京に通う)
母:30代、専業主婦、自然の中での教育が魅力的
子:栗ガ丘小学校に通う

family②　家族と過ごす時間を重視、仕事に追われず家事・育児に携われる生活を

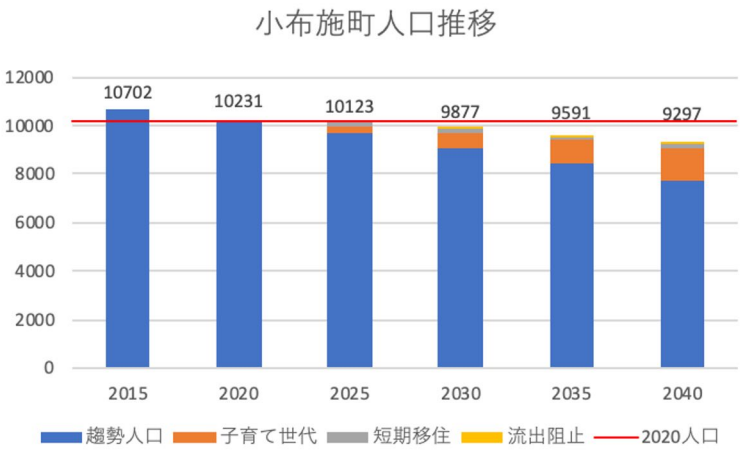
父:30代、新規就農、「就農体験セミナー注1」や「長野県新規就農里親制度注2」の利用
母:30代、小布施町でパートとして働く、コミュニティーの中での子育てが魅力的
子:栗ガ丘小学校、栗ガ丘幼稚園に通う

注1：農業への関わり方などを説明する場。東京などの都市部で開催される。
注2：里親として登録された農業者が新規就農者に対して技術習得だけでなく、地域への紹介や農地・住宅・中古機 械の確保、就農後の相談役としての応援を行う。

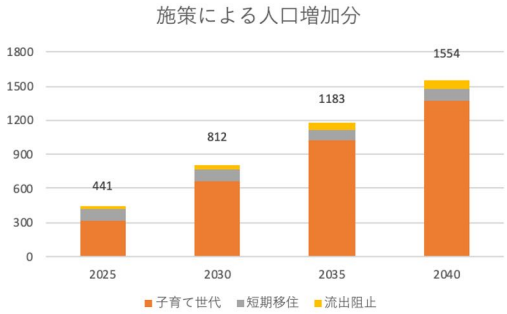
小布施町での実施案

- 短期移住、年間1000人ほどを目標に。
  - 平均1-2ヶ月の滞在として、人口の1%の100人の短期移住者がいる。(田園回帰1%戦略参照)
- 子育て世代の流入は年間20世帯程度までなら受け入れ可能。(町内の小学校の児童数の推移より算出)
- テレワークの普及により若い世代(20代後半)の流出阻止(2010-2015では43人)
- 空き家は少ない注1ため、離れや空いてる部屋の活用も視野に。

注1：小布施町職員へのインタビュー(2020/06/24)より



2040年
趨勢人口
7743人
目標人口
9297 人
+1554人
(20% up)



藤山浩「田園回帰1%戦略」https://www.jamp.gr.jp/wp-content/uploads/2019/12/119_03.pdf
人口情報 https://www.town.obuse.nagano.jp/fs/1/2/3/4/4/_/obusetoukei.pdf
https://jp.gdfreak.com/public/detail/jp01005000001020541/1

with期：問いかけ期・宣伝期

with期：ソーシャルディスタンスを確保し、

新たな生活様式に従って人々が生活する

- 取り組みの方針

①地方での生活の魅力を都市住民に伝える

②都市での生活への問題提起

— 過密、感染リスク、窮屈な住環境

③地方と都市の人をつなぎ、関係人口を増やす

左上：https://u-note.me/より
左下：https://blog.global.fujitsu.com/より
右上：https://diamond.jp/より
右下：http://matuazu.info/より

with期：まちウェビナー

住民ワークショップの開催

同じ町村内の住民が集い、自らのまちの歴史・暮らし・風土について再確認し、魅力と課題を再発見する

https://www.city.miyako.iwate.jp/
より

住民主体のオンライン上での情報発信

企業や行政のサポートのもと、ワークショップを通して動画を制作しYouTubeなどで発信

https://www.irasutoya.com/より

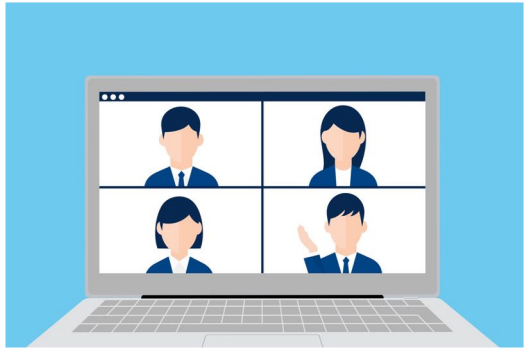
都市の人に町の歴史・暮らし・人の魅力を伝える

気軽に触れられる動画を通してまちそのものに対して興味を持ってもらう

https://maaru-obuse.com/より

with期：オンライン交流会の開催

- 地方の学校 × 都市の学校
  - 自分とは異なるバックボーンを知る
  - 将来的な双方向の交流・移住のきっかけづくり
- 移住を検討する人 × 地域住民
  - 移住者と住民双方の不安の解消
  - ミスマッチングの解消
  - コミュニティへの参加へのハードルを下げる
  - まちと人を知る
- 都市の企業 × 地方都市の企業・農家
  - 地方のものづくり×都市のテクノロジーによる新価値の創造
  - 地方への企業の機能移転の促進



https://notepm.jp/blog/1962より

小布施町の移住プロモーション動画より
（http://my-jpn.com/award/2013prize/）

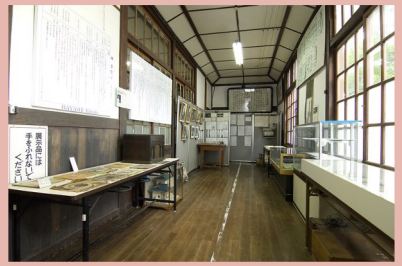
with期：まち博物館の設置

アンテナショップ

食・観光を中心とした情報発信

＋

まち博物館



歴史・暮らし・人を中心とした情報発信

→

地方への関心の向上

都市の人と地方の人をつなぐ

- 既存のアンテナショップに展示スペースを併設
- 月替わり、週替わりなどで一つの市町村が展示を行う
- 地方の歴史、生活、人を知ってもらう

写真左：銀座NAGANO－https://urabus.jp/より
写真中央：小布施歴史民俗資料館－https://www.go-nagano.net/より
写真右：House Hokusai HP より

post期：行動期

post期：新型コロナウイルス感染症の治療法が確立され、
他の感染症と同等に扱われるようになる

人々はコロナ禍以前のような生活を取り戻すが、
オンライン化による恩恵を引き続き享受する

- 取り組みの方針

with期に高まった地方への関心をもとに、
実際に地方を訪問、また地方に滞在することを促す

post期：ワーケーション促進

- 平日でも、仕事をきっかけとして地方を訪れるきっかけを与える
  - 休暇期間でなくとも地方都市を訪れることができる
  - テレワークオフィスと宿泊施設を合わせて提供する
    - 一つの建物の中に整備する、または宿泊施設は近くの空き家や民家の空き部屋を利用する（プランの形で提供）
  - 企業等、団体で訪問することも可能

（参考）長野県小布施町 HOUSE HOKUSAI
（１階：コワーキングスペース＋２階：ADDress）

小布施邸｜ADDress
https://address.love/house/obuse.html より

post期：移住体験

- 夏休み等に、短期間（数週間〜数ヶ月）の移住体験を行う
  - 移住を検討する子育て世代が、現地の生活を体験する
  - いくつかの地域を訪れ、現地で生活を比較することもできる
  - 古民家の活用も考えられる

（参考）富山県朝日町
ふるさと移住交流体験施設　さゝ郷ほたる交流館

さゝ郷ほたる交流館 / もっともっと朝日町 motto motto asahimachi | 富山県朝日町
https://asahimma.com/data/html/index.php/products/detail/11 より

小布施町での実施案

with期：発信する

- 墨田区のソラマチ（押上）でまち博物館の開催。
- 区町と中学生、自治会によるオンライン交流会の実施。

post期：受け入れる

- 友好都市である墨田区に本社のある企業に新婚さん向けワーケーションを提案する。（HOUSE HOKUSAI利用）
  - 配偶者向けプラン：モンブラン職人プラン、子育て実感プランなどを提供。
- 短期的な移住体験用の「お試し住宅」を設置。
- 子育て世代が入居しやすい住宅地の整備と入居者への自治会の支援。

HOUSE HOKUSAI https://househokusai.com
写真上 https://www.kugawaseikeigeka.com/section/takujisho
写真下 https://www.walkerplus.com/article/67787/image379203.html

都市と地方の関係性の変化

	pre COVID-19	with COVID-19	post COVID-19
都市	集積と過密の中の生活	テレワークの普及と 過密への問題意識	地方の暮らしを 気軽に・短期間・何度も 体験できる 働く場所にとらわれない 居住地選択
	観光・消費　労働人口	移住への興味　情報発信	地方参画　テレワークで 地方貢献 都市経済の支援
地方	人口減少 後継者不足	観光への大打撃 →観光のあり方の見直し	都市の人々とのこれまで 以上の深い関わり方 関係人口が増えることで 地域コミュニティや 文化、産業の継承

pre　COVID-19 都市には人が流れ、減退した地方活力を都市の余剰金で補う。

post COVID-19 ライフステージに合わせ、都市生活と地方生活を自由に組み合わせ、地域を支える。